




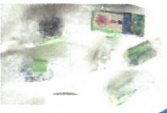

















グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
	1	災害の始まり				
	1-1	事故前の暮らし				
	1-1-①	子どもたちの学校生活の記録①				
①	001		合唱部練習用 (Dと友達あての 手紙(〇〇 〇))	1-1-①子どもたちの学校生活の記録① 収集場所:〇〇〇 地震発生後、急いで避難したため持ち帰ることができず、学校に残された遊び道具や手紙です。震災前の学校の様子が伝わる資料です。震災後、長い間教室の中にそのまま残されていました。(86字)	ネームのみ	〇〇
	002		手提げ袋(〇〇 〇〇)		ネームのみ	〇〇
	003		帽子(〇〇〇 〇)		ネームのみ	〇〇
	004		小学生学習教材(〇〇〇〇)		ネームのみ	〇〇
	005		小学生の遊び 道具(〇〇〇〇)		ネームのみ	〇〇
	006		小学生の携帯 小物(〇〇〇〇)		ネームのみ	〇〇
	1-1-②	子どもたちの学校生活の記録②				
②	007		鍵盤ハーモニカ 〇〇〇〇)	②子どもたちの学校生活の記録② 収集場所:榎葉町、富岡町、〇〇〇 津波による大量のガレキの中で発見された楽器や名札です。一瞬の間に「ふつうの生活」が失われてしまったことがわかります。賞状は原発事故による長期避難で持ち出すことができず、職員室に残されていたものです。(99字)	ネームのみ	〇〇
	008	Photo Photo	児童、生徒の名 札(〇〇〇〇)		ネームのみ	〇〇
	009	Photo Photo Photo	部活動への賞 状(榎葉北小・富 岡高校)		ネームのみ	富岡町 榎葉町
	1-1-③	地域生活の記録				
③	010		・双葉ダルマ	③地域生活の記録 収集場所:南相馬市、双葉町、〇〇町 相双地域は太平洋に面し、沖合に好漁場を有するとともに、江戸時代から続く浪江町の伝統工芸品「大塚相馬焼」や双葉町の正月行事「ダルマ市」を始めとして、文化と伝統が息づく地域です。これらの産業や文化・伝統は震災によって大きな被害を受けました。(118字)	・双葉ダルマ 双葉ダルマは青色の顔の輪郭線が特徴で、一年間の家内安全と豊作祈願として家に飾ります。(42字)	双葉町
	011	Photo	・船名や屋号の 焼印		・船名や屋号の焼印 〇〇〇〇〇〇〇〇の津波被災のガレキから見つかった漁具や道具用の焼印です。ほかの船のものと区別するために使われました。(57字)	〇〇
	012	Photo	・漁船の浮き具		・漁船の浮き具 〇〇〇〇〇〇〇〇の津波被災のガレキから見つかった船名が書かれた漁網の浮き具です。(39字)	〇〇

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
1-3 原子力発電所事故の発生						
1-3-①原子力発電所の事故を伝える新聞						
①	033	Photo	・特別号外で原発事故発生を伝える新聞(3月13日)	①原子力発電所の事故を伝える新聞 福島第一原発事故の様子を伝えた新聞記事です。1号機原子炉建屋が水素爆発を起こしたことから「炉心溶融」という現象が起きているのではないかと伝えています。その後、3号機建屋が水素爆発を起こすまでの緊迫した様子を伝えています。(111字)	ネームのみ	—
	034	Photo	・特別号外で非常事態を伝える新聞(3月12日)		ネームのみ	—
	035	Photo	・原子力発電所の爆発を伝える新聞(3月13日)		ネームのみ	—
	036	Photo	・原子力発電所の事故発生を伝える新聞(3月15日)		ネームのみ	—
1-3-②原子力発電所事故特有の痕跡						
②	037	Photo	・県立大野病院に残された新聞	②原子力発電所事故による痕跡 収集場所:大熊町、〇〇〇 救急受入病院も、避難先となった体育館も、原子力災害により帰還困難区域となり、長い間、当時のままとなっていました。残された新聞からは、地震と津波があった翌日も朝刊の配達が行われていたことがわかります。(99字)	・県立大野病院に残された新聞 病院に残された2011年3月12日の朝刊です。(23字)	大熊町
	038	Photo	・パイプ椅子と朝刊(〇〇〇)		・パイプ椅子と朝刊(〇〇〇) 避難所となった体育館に残されたパイプ椅子と新聞です。体操マットや毛布、石油ストーブなどもそのままになっていました。(57字)	〇〇〇
1-3-③電源ケーブル						
③	039	Photo	・電源ケーブル	③電源ケーブル 福島第一、第二原発は津波により非常用電源まで使えなくなり、原子炉を冷却することができなくなりました。第二原発では、人力で数kmの間をケーブルでつなぎ電源を確保しました。(84字)	←	同等品(新品) 購入・展示
1-3-④原子力発電所事故に対応した消防車の設備						
④	040		・車載用消防警報機及び防災無線機	④原子力発電所事故に対応した消防車の設備 収集場所:楡葉町 地震発生直後より双葉消防本部では、倒壊した建物を捜索したり、大津波警報発表後に避難を呼びかけたりしました。資料はこの時に使われていた消防車の無線機で、福島第一原発の事故対応でも多くの緊迫したやりとりが行われました。(107字)	・車載用消防警報機及び防災無線機 避難を呼びかけた拡声器付き警報器と無線機です。(23字)	楡葉町
	041		・アナログ式車載無線機		・アナログ式車載無線機 福島第一原発1号機建屋の水素爆発を双葉消防本部に伝えた無線機です。原子炉冷却支援や4号機火災出動でも使われました。(57字)	楡葉町
	042		・消防支援車両「双葉14号」		・消防支援車両「双葉14号と富岡2号」 原発構内へも出動した車両のナンバープレートです。この車両は被ばく線量が高く後に廃車となりました。(48字)	楡葉町
	043		・消防支援車両「富岡2号」			楡葉町

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
1-3-⑤海中捜索活動に使用した潜水具						
⑤	044		・海中捜索に使用した潜水具	⑤海中捜索活動に使用した潜水具 収集場所: ○○○○(○○○○○○○○○○) 原発事故直後から行方不明者の捜索が行われました。海中捜索活動も行われ、潜水の前には線量の計測を行い、安全を確認しながらの作業となりました。(69字)	←	○○○○
1-4 災害対策本部の記録						
1-4-①手書きの対策メモ(暗中八策)						
①	045		・手書きの対策メモ(暗中八策)	①手書きの対策メモ(暗中八策) 収集場所: 浪江町 震災当時の浪江町長が書いた復興に向けたメモで、仮設庁舎にいた職員にコピーが配られました。生活支援の充実や新たなコミュニティの創造など今後の復興の骨子となる重点的な政策を箇条書きにしたものです。(96字)	←	浪江町
1-4-②各機関の災害記録						
②	046		・各機関の災害記録(国・県・市町村、医療・警察・消防等)	②各機関の災害記録 災害や復興についてまとめた各機関の記録誌です。県や市町村以外では原発事故の被ばく医療にあたった県立医大や、原発の原子炉冷却支援のため出動した双葉消防本部などでもそれぞれ記録誌を作成しています。(96字)	←	県内各市町村他
1-4-③医療機関の災害記録						
③	047		・災害対策本部の動きを記録した模造紙	③医療機関の災害記録 収集場所: ○○○ ○○○○○○○○○○の災害対策本部で使用された模造紙です。県災害対策本部に派遣した職員からの救急依頼や原発事故の推移の情報が手書きされています。○の支障物資や血液の搬送状況も記録されています。(97字)	←	○○○ (○○○○○ ○○○)
1-4-④県原子力センターに残る記録						
④	048		・原子力発電所の運転状況ボード	④県原子力センターに残る記録 収集場所: 大熊町 原発事故後に県原子力センターが測定した周辺地域の放射線量などを示しています。手書きの測定結果や放射線防護のために機の周りに置かれた鉛の遮蔽マットから、見えない放射線への対応の苦労が伝わります。(96字)	・原子力発電所の運転状況ボード 福島第一・第二原発の稼働状況を記録していたホワイトボードです。事故前の稼働状況がわかります。(46字)	大熊町 (旧原子力センター)
	049		・第一原発事故の時系列記録		・福島第一原発事故の時系列記録 事故後の推移を時系列で記録したホワイトボードです。(25字)	大熊町 (旧原子力センター)
	050		・放射性ヨウ素測定結果ボード		・放射性ヨウ素測定結果ボード 会議室に残された放射性ヨウ素測定結果を記したホワイトボードです。(32字)	大熊町 (旧原子力センター)
	051		・県の防災ヘルメット		・県の防災ヘルメット 県原子力センターの机上に多く残されていたヘルメットです。(28字)	大熊町 (旧原子力センター)
	052		・鉛の遮蔽マット		・鉛の遮蔽マット 放射線モニタリング担当者席に設置されていました。放射線から職員を守るための鉛のパーティションです。(50字)	大熊町 (旧原子力センター)



グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
1-4-⑤オフサイトセンターに残る記録						
5	053	Photo	・警戒段階における緊急事態 応急対策(マ ニュアル書)	⑤オフサイトセンターに残る記録 収集場所:楡葉町、大熊町 原発事故直後に対応した記録が長い間ほぼそのまま残されて いました。残された各班のホワイトボードから、緊急事態にどの ように対応したかがわかります。 (71字)	・警戒段階における緊急事態 応急対策(マニュアル書) 緊急事態対策手順書の簡易版です。対応手順ごとにページ が分かれています。(35字)	大熊町 (IBOFC)
	054	Photo	・住民安全班の 机に残され た備品		住民避難を担当する班の机に残された道具類です。衛星電 話を使い、残された住民の救助依頼等を行いました。(50字)	大熊町 (IBOFC)
	055	Photo	・事故当時の状 況を記載したホ ワイトボード		・事故当時の状況を記載したホワイトボード 住民の避難状況を記録したものです。住民の避難先一覧表 の欄は赤字の訂正が残され、変化する状況を伝えています。 (53字)	大熊町 (IBOFC)
	056	Photo	・オフサイトセン ターの防災道 具セット		・オフサイトセンターの防災道具セット 常備されていた緊急対応用の道具セットです。中には防護服 やゴム手袋、靴のカバーなどが入っていました。(50字)	大熊町 (IBOFC)
	057	Photo	・オフサイトセン ターの緊急用 詰防災服-1		・オフサイトセンターの緊急用詰防災服-1 オフサイトセンターに駆け付けた双葉消防本部消防隊員が身 に着けていた防災服です。 (39字)	楡葉町 (双葉消防本部)
	058	Photo	・オフサイトセン ターの緊急用 詰防災服-2		・オフサイトセンターの緊急用詰防災服-2 派遣された消防隊員の活動服です。原発事故の際の担当職 員は事故前から定期的な原子力防災訓練にも参加していま した。(56字)	楡葉町 (双葉消防本部)
6	059	Photo	・福島第一原子 力発電所周辺 図-1	⑥福島第一原子力発電所周辺図-1 収集場所:大熊町 オフサイトセンターに事故対応当時のまま残されていた、福島 第一原発を中心とした地図です。地図上には避難所が示さ れ、ボード脇に救援車両を表すマグネットが多く用意されてい ます。避難指示の拡大に併せ、多くの車両が住民の避難に対 応したことがわかります。 (121字)	←	大熊町 (IBOFC)
	060	Photo	・福島第一原子 力発電所周辺 図-2	⑥福島第一原子力発電所周辺図-2 収集場所:大熊町 ※展示更新用 オフサイトセンターに事故対応当時のまま残されていた、福島 第一原発を中心とした地図で、避難所を結ぶ主要道路を網羅 しています。避難指示の拡大状況に伴う避難誘導時の移動経 路や避難所を示しています。 (95字)	←	大熊町 (IBOFC)

原子力発電所事故後の対応



2-1 避難の開始

2-1-①避難所となった体育館



1	061	Photo	・暗幕とマフラー (〇〇〇)	①避難所となった体育館 収集場所:〇〇〇 避難所となった体育館にはストーブや毛布などが数多く残って いました。震災当日行われた卒業式で使用された物品を転用 したことがわかる資料や、多くの住民が避難してきたことで混 乱する様子が伝わる資料があります。混乱しながらも協力して 過ごした工夫もみられました。 (125字)	・暗幕とマフラー(〇〇〇) 体育館に残された暗幕とマフラーです。3月の室内は寒く、暗 幕をはずし、毛布代わりに使用しました。(47字)	〇〇〇
	062	Photo	・石油ストーブ (〇〇〇)		・石油ストーブ(〇〇〇) 体育館で使用された石油ストーブです。パイプ椅子の位置は 発見された時、避難当時のままで、ストーブを囲むように置か れていました。(62字)	〇〇〇
	063	Photo	・トイレのお願い 掲示(〇〇〇)		・トイレのお願い掲示(〇〇〇) 体育館のトイレの水洗が使えなくなり、水の用意をお願いした 避難所特有の苦労が伝わるメッセージボードです。(50字)	〇〇〇

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
U	064		・トイレを流すためのバケツ(〇〇〇)		・トイレを流すためのバケツ(〇〇〇) 体育館のトイレに水を流すために置かれたバケツです。日中でも2℃前後の気温の中、バケツの水は、約200m離れたプールから交代で運びました。(68字)	〇〇〇
	065		・残された赤カーペットと毛布(〇〇〇)		・残された赤カーペットと毛布(〇〇〇) 避難所となった体育館には、当日卒業式で使われた赤カーペットが毛布とともに残されていました。(45字)	〇〇〇

2-1-②災害時の救急受入病院の対応




②	066		・救急受入患者名簿	②災害時の救急受入病院の対応 収集場所:大熊町 県立大野病院は津波被災地に近いため、地震発生後に大勢の患者が来ることを想定し、その受け入れ準備をしていました。しかし、実際には原発事故により避難指示が出されたため、何人かの患者を受け入れた後に入院患者も含めて避難を余儀なくされました。(117字)	・救急受入患者名簿 ホワイトボードに貼ったまま残されていた救急の「受入患者名簿」です。患者名とともに症状が書かれていました。(41字)	大熊町 (県立大野病院)
	067		・残されていたトリアージタグ		・残されていたトリアージタグ トリアージとは、患者の状態を診察順を決める緊急時の方法で、このタグは地震発生後からすぐに使えるよう準備されていました。(60字)	大熊町 (県立大野病院)

2-1-③避難先での生活


③	068		・県外避難者支援の記録	③避難先での生活 収集場所:北海道、白河市 長期避難となったことで生じた生活の苦勞や、避難先での人々との交流、生活基盤が不安定な中で暮らす様子などを伝えています。(59字)	・県外避難者支援の記録 県外避難した県民を受け入れたときの交流支援活動の記録です。心の問題、法律問題など避難生活全般の支援をしていました。(57字)	北海道
	069		・応急仮設住宅団地案内看板		・応急仮設住宅団地案内看板 応急仮設住宅の案内看板です。白河市には、市内の被災者用に140戸、相双地域の避難者用に120戸の住宅が作られました。(58字)	白河市








2-2 県内に広がる不安









2-2-①放射線への対応

①	070		・防じんマスク	①放射線への対応 収集場所:〇〇〇〇、大熊町 原子力災害の特徴の一つは、被害をもたらす放射線が目に見えないことです。この放射線から身を守るため、防護服などが使用されました。特に原発事故初期の対応には、放射線についての情報が十分でないため、不安がつかまいました。(108字)	・防じんマスク 放射線量が高い区域でつけるマスクです。放射性物質を体内に取り込まないようにするためのものです。(47字)	大熊町 (旧原子力センター)
	071		・防護服		・防護服 身体や衣服に放射性物質が付着するのを防ぐための服です。表面には放射性物質が付きにくい加工がされています。(52字)	大熊町 (IBOFC)
	072		・安定ヨウ素剤		・安定ヨウ素剤 大気中へ放射性ヨウ素は放出された場合に備えて服用します。甲状腺への放射性ヨウ素の影響を低減する効果があります。(55字)	〇〇〇〇

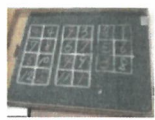







2-2-②生活空間の放射線の低減


②	073		・生活空間における放射線量低減化対策手引き(平成23年8月以前)	②生活空間の放射線の低減 自宅周辺の放射線量を減らす方法がわかりやすくまとめられた県作成の手引きです。事故直後から各地域で生活空間の放射線量を減らす取組が進められました。(72字)	←	福島県 除染対策課
---	-----	---	----------------------------------	---	---	--------------

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所		
2-3国内外の反応と支援								
2-3-①海外の報道								
①	074	Photo	・聯合報 (台湾3月13日)	①海外の報道 事故直後に海外で発行された新聞です。福島第一原発事故は世界的にも大きくとりあげられました。これらの新聞では、地震・津波の様子を写真とともに大きく扱い、原発事故の状態を伝えました。 (89字)	・聯合報(台湾3月13日) 「十万人が避難」の見出しで原発事故を伝えています。(25字)	個人		
	075	Photo	・ザ・タイムス(イギリス:3月14日)				・ザ・タイムス(イギリス:3月14日) 「核の恐怖に包まれる日本」と伝えるイギリスの新聞です。原発事故を戦後日本の最大の災害と伝えています。(50字)	
2-3-②海外からの励まし								
②	076		・ウクライナ共和国の子どもたちから届いた絵画	② 海外からの励まし 海外からはたくさんの励ましのメッセージや絵が福島へ届けられました。海外の子どもたちが福島の子どもたちにあてた絵画からは、身近な友人のように福島の子どもたちを励まそうとする気持ちが伝わります。 (97字)	・ウクライナ共和国の子どもたちから届いた絵画 子どもたちにあてて描かれた絵画です。絵の中には励ましのメッセージが書かれています。(41字) ※絵の中に書かれた「メッセージ」 ◎私たちがついているよ Ми з вами ◎日本の友達、がんばってね Хай щасття, японські друзі	福島県庁		
	077		・アメリカ合衆国の子どもたちから届いた絵画				・アメリカ合衆国の子どもたちから届いた絵画 マサチューセッツ州の子どもたちから届いた励ましの絵画です。小学生たちがお菓子のイラストを贈ってくれました。(53字)	福島県庁
	078		・ヨルダン・ハシメットからの支援Tシャツ				・ヨルダン・ハシメット王国からの支援Tシャツ 県立医大には国内外を問わず数多くの医療支援チームが訪れました。これはヨルダンチームから贈られたTシャツです。 (54字)	福島県庁
2-3-③国内からの励まし								
③	079		・折り鶴(広島県) ○○○○○ ○	③国内からの励まし 全国の学校などから励ましの寄せ書きや、折り鶴、メッセージが届きました。それぞれの場所から福島の復興を願い、励ます想いが伝わります。 (65字)	ネームのみ	○○○		
	080		・寄せ書き(○○) ○○○○○ ○			ネームのみ	○○○	
	081		・寄せ書き(○○) ○○○○○ ○			ネームのみ	○○○	
	082		・○○○○○ ○○○○○ ○○○○○ ○○			ネームのみ		

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
2-3-④国内からの支援物資						
④	083		・災害用備蓄毛布(支援品)	④国内からの支援物資 全国から様々な支援物資が届けられました。中身は「歯ブラシ」などの日用品から、避難所で使う「テレビ」、「ストーブ」など多岐にわたりました。(73字)	・災害用備蓄毛布(支援品) 奈良県王寺町から送られた災害用備蓄毛布です。(22字)	〇〇
	084	Photo	・各種の支援物資(衛生用品、防虫駆除剤等)		・各種の支援物資(衛生用品、防虫駆除剤等) 全国から届いた支援物資です。(14字)	〇〇
	085	Photo	・民間からの支援物資(吸水土嚢)		・民間からの支援物資(吸水土嚢) 民間から支援された土嚢袋です。水に沈めると膨らみ重い土嚢となり、災害対策用に積み上げることができます。(51字)	〇〇〇〇〇〇 〇〇
3 県民の想い						
3-①黒板に残されたメッセージ						
①	086		・川内村に避難した方が黒板に残したメッセージ	①黒板に残されたメッセージ 収集場所:川内村 2011年3月12日の朝8時に富岡町民約6,000人が富岡町から川内村へ避難しました。しかし、原発事故の状況は時間を経るごとに深刻化し、16日には川内村民とともに郡山市に再度避難しました。この黒板には富岡町民が川内村を出る時のお礼のメッセージが書かれています。(130字)	←	川内村
3-1災害時に感じた不安・恐れ						
3-1-②地震発生時の様子						
②	087		・地震により落下した蛍光灯(〇〇)	②地震発生時の様子 収集場所:〇〇〇 震度6強もの激しい地震に襲われた〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇の体育館は大きな被害を受けました。照明器具や天井板が落下し、ステージ上には粉々になった天井材やガラスの破片が散乱していました。床には、割れた蛍光灯がそのまま残され、あの日の恐怖をとどめていました。(123字)	ネームのみ	〇〇
	088		・地震により落下したステージ上の天井板(〇〇)		ネームのみ	〇〇
3-1-③津波発生時の様子						
③	089		・津波により漂着した腕時計	③津波発生時の様子 収集場所:〇〇〇、〇〇〇 この建物の近くにある〇〇〇消防団の屯所にも津波が押し寄せました。津波により屯所の扉はなくなり、ぬいぐるみや腕時計など、生活の跡を示すものを含むガレキが中まで入りこみ、津波の恐ろしさを伝えています。(98字)	ネームのみ	〇〇
	090		・津波により漂着したハンカチ		ネームのみ	〇〇
	091		・津波により漂着したヘッドホン		ネームのみ	〇〇
	092		・津波により漂着したぬいぐるみ		ネームのみ	〇〇

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
3-1-④津波の衝撃						
4	093		・津波被災ガードレール支柱	④津波の衝撃 収集場所: 双葉町 この建物付近の川のそばで発見されたガードレールの支柱です。何本もの太い金属の柱が同じ方向に「く」の字に曲がっていました。このように支柱を曲げるほどの津波が川を逆流し、付近の家々までものみ込まれてしまいました。(104字)	←	双葉町
	3-1-⑤地震、津波、原子力発電所事故の救助と冷却支援					
5	094		・双葉消防本部 防火衣	⑤地震、津波、原子力発電所事故の救助と冷却支援 収集場所: 楡葉町 消防隊員が地震・津波の救助活動や、原発構内での給水活動などで実際に着用した防火(ぼうか)衣(い)です。情報が少ない中での原発構内の活動は、常に放射線への恐怖と脅威にさらされながら、決死の覚悟で続けられました。(110字)	個別ネーム	楡葉町 (双葉消防本部)
	095		・双葉消防本部 隊員が着用した 装備ヘルメット		個別ネーム	楡葉町 (双葉消防本部)
	096		・ヘルメット		個別ネーム	楡葉町 (双葉消防本部)
	097		・ヘルメット(防火用しころ付き)		個別ネーム	楡葉町 (双葉消防本部)
	098		・ベルト(防火用)		個別ネーム	楡葉町 (双葉消防本部)
	099		・作業用ロープ (防火用)		個別ネーム	楡葉町 (双葉消防本部)
	100		・携帯無線機(アナログ式)、個人線量計		・携帯無線機(アナログ式)、個人線量計 原発構内における高線量下での活動の際、各隊員が放射線から体を守るため携帯した線量計です。(47字)	

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
3-2楽しかった学校生活と突然の別れ						
3-2-①楽しかった学校生活						
①	101		・席替え表(〇〇〇〇)	<p>①楽しかった学校生活 収集場所: 〇〇〇</p> <p>〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇の教室内に震災後長い間、避難当時のままで残されていたものです。原発事故により長期避難を余儀なくされ、学校での生活は失われました。タイムカプセルのようになった教室は原発事故による目に見えない被害を伝えています。(114字)</p>	個別ネーム	〇〇〇〇
	102		・「さつまいも新聞」(〇〇〇〇)		〇〇〇〇	
	103		・「生き物☆新聞」(〇〇〇〇)		〇〇〇〇	
	104		・「アルバム係の計画表」(〇〇〇〇)		〇〇〇〇	
	105		・ネックウォーマー、手袋、折畳傘(〇〇〇〇)		個別ネーム	〇〇〇〇
	106		・ランドセル(〇〇〇〇)		個別ネーム	〇〇〇〇
3-2-②高校生活の記憶						
②	107		・1年生の時間割(富岡高校)	<p>②高校生活の記憶 収集場所: 富岡町</p> <p>これらの資料は県立富岡高校の教室や職員室にあったものです。避難当時のままの校舎内には、時間割などの掲示物が残され、授業や部活動の写真とともに、震災で失われた当時の高校生活の様子を伝えています。(96字)</p>	富岡高校	富岡高校
	108		・年間行事予定表(富岡高校)		富岡高校	富岡高校
	109		・3年生のメッセージ(富岡高校)		富岡高校	富岡高校
	110		・作りかけの美術作品-1(富岡高校)		富岡高校	富岡高校
	111		・作りかけの美術作品-2(富岡高校)		富岡高校	富岡高校

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
3-3家族との思い出や地域生活と別れ						
3-3-①地域に伝わる祭り						
①	112	Photo	・○○○○○/田植え踊り、早乙女着物(○○○○○)	①地域に伝わる祭り 収集場所:○○○ ○○○は○○○○○○○にある○○○○○○○○○で行われる海上安全、豊漁・豊作を祈って舞を奉納するお祭りです。奉納舞は境内および○○の浜で行われていました。津波により社殿、衣装、道具など全て流出しました。この衣装資料は2011年8月の震災後初披露の際、子どもが着用したものです。(138字)	個別ネーム ※衣装の個別ネーム	○○○
3-3-②日常との別れ						
②	113		・野生動物に荒らされたふすま	②日常との別れ 収集場所:○○○ 避難指示区域では長期間にわたって住宅が無人となったため、家の中で野生動物に荒らされていました。家族が食事をした茶の間も見る影もなく、穴の開いたふすまが、戻らない日常生活を伝えています。(93字)	・野生動物に荒らされたふすま イノシシに破られたふすまです。(15字)	○○○
	114		・野生動物に開けられた缶詰			
3-4生活基盤の喪失と将来への不安						
3-4-①②生活の不安						
①	115	Photo	・数年分の山菜検査番積書類	①生活の不安 収集場所:○○○ 季節ごとに採れた山菜が、原発事故により検査をしないと食べることができなくなりました。この資料は、同じ場所で採取したキノコの数年分の食品検査記録です。(74字)	←	○○○
②	116	Photo	・警戒区域内家畜安楽死措置実施証明書	②生活の不安 収集場所:○○○ 畜産農家は線量の高い地域で育てた家畜を出荷できなくなりました。資料は、このことにより実施された安楽死措置の証明書です。農家としての仕事を失うだけでなく、大切に育てた家畜を安楽死処分した喪失感が伝わります。(102字)	←	○○○ ○○○○
3-4-③再興への想い						
③	117		・大塚相馬焼「走り駒」	③再興への想い 浪江町の大塚相馬焼組合が2012年に製作した「復興」の皿です。大塚相馬焼は震災直後に生産ができなくなりましたが、避難先の二本松市で組合が浪江町民にお礼と応援の思いを込めて製作しました。9頭の走る馬の絵を描き、これから「うま(馬)く(九)いく」ようにとの願いを込めました。(135字)	←	福島県








グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
------	-----	------	---------------	-------------	----------	------





4 長期化する原子力災害の影響

4-1 除染

4-1-① 除染関連資料

①

118		・除染ボランティア用作業着類	<p>①除染関連資料</p> <p>これらの資料は除染作業の際に使用されたものです。県内では放射線量を下げるために、初期の高線量下では防護服や線量計を身に付けて除染作業をしました。こうした除染作業が県内の広範囲で行われていました。(97字)</p>	・除染ボランティア用作業着類 この作業着はボランティアが通学路の除染を行う際に着用したピブスです。(34字)	福島県
119		・防護服		・防護服 原発事故初期の除染作業で使用されたこの服は、避難者が避難指示区域に一時帰宅する際にも使用されました。(50字)	福島県
120		・フレキシブルコンテナバッグ		・フレキシブルコンテナバッグ 除染作業で発生した除去土壌等をこの中に入れ、仮置き場等に一時保管されました。(39字)	
121		・線量計		・線量計 被ばく量を計測するものです。場所の線量を測る空間線量計、一定時間の線量を測る積算線量計があります。(49字)	
122		・除染作業中の様子		ネームのみ	購入
123		・放射線・除染講習会テキスト		・放射線・除染 講習会テキスト 県が作成した除染等業務従事者用の講習テキストです。必ず受講しなければならないことが法律で定められています。(53字)	福島県 除染対策課
124		・除染ハンドブック		・除染ハンドブック 基本的な除染方法が記載されています。県が除染等業務従事者の講習会等で使用したものです。(43字)	福島県 除染対策課

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
4-2風評の払拭						
4-2-①風評の払拭に関する関連資料						
①	125		・ふたばぐるぐるMAP	①風評の払拭に関連した資料 収集場所:〇〇〇 原発事故は福島県に深刻な風評をもたらしました。風評払拭のためにイラストで福島の情報を伝えたり、他県の若者との交流及び食のイベントを開催するなど多様な取り組みがなされています。 (87字)	・ふたばぐるぐるMAP 福島大学が製作したマップです。復興により変化する被災地の状況を正確に伝えるため、何度も更新しています。(51字)	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
	126		・ふくしままっぴ		・ふくしままっぴ 県が製作したイラストによる親しみやすい福島情報マップです。名所や県民の歌などの情報が載っています。(49字)	福島県庁
	127		・風評風化対策事業チラシ(スタディツアー)など		・風評風化対策事業チラシ(スタディツアー)など 風評を払拭するため、県内外の学生が研修・交流をしながら理解を深めるツアーなどを行っています。(46字)	福島県庁
	128	Photo	・入浴施設利用者実績表(〇〇〇〇)		・入浴施設利用者実績表(〇〇〇〇) グラフからも宿泊者数が震災前の状態までは回復していない様子がわかります。(36字)	〇〇〇
	129		・食と放射能に関する説明会		・食と放射能に関する説明会 専門家を派遣して、職と放射能に関する不安の解消を図る説明会の案内です。(35字)	福島県





4-3長期避難への対応

4-3-①長期避難関係資料(立入許可証等)

①	130		・福島県緊急事態対応策通行車両証明書(福島県)	①長期避難関係資料(立入証明証等) 収集場所:〇〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 避難指示区域内の住民が自宅に入る際等には、公的機関が発行する、通行のための証明書や許可証が必要です。長期広域避難する住民のために高速道路の通行料金が免除される制度も実施されました。 (90字)	・福島県緊急事態対応策通行車両証明書	福島県
	131	Photo	・緊急事態対応策通行車両許可証(〇〇〇)		・緊急事態対応策通行車両許可証	〇〇〇
	132	Photo	・公益一時立入車両通行許可証(〇〇〇)		・公益一時立入車両通行許可証	〇〇〇
	133	Photo	・〇〇〇臨時通行証2種		・〇〇〇臨時通行証2種 お盆とお彼岸の時期の通行証です。墓参りが避難者と故郷とを繋ぐことがわかります。 (39字)	〇〇〇
	134	Photo	・り災証明書		・り災証明書 災害による家屋の被害程度を公的に証明するものです。担当市町村が現地調査で確認して発行します。 (48字)	〇〇〇〇
	135	Photo	・原子力発電所事故による被災証明書		・原子力発電所事故による被災証明書 家屋以外の被災事実を証明するものです。この被災証明書により高速道路の通行料金が免除されました。 (46字)	〇〇〇
						・福島県緊急事態対応策通行車両証明書 県や市町村が発行した、帰還困難区域に立ち入るための証明書や許可証です。(35字)

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
	136	Photo	・ふるさと帰還通 行カード		・ふるさと帰還通行カード 長期広域避難する住民のための通行カードで、高速道路の 料金を免除するものです。 (39字)	〇〇〇

4-3-②長期避難関係資料(生活再建手続き)


②	137		・災害復興住宅 融資のお知らせ	②長期避難関係資料(生活再建手続き) 収集場所: 楢葉町、葛尾村 これらの資料は、仮設住宅の入居や新たな場所で生活を始める 時の案内書類です。自宅に戻る人は補修と建て替え、新た な場所で生活をする人は就職や教育などに必要な申請手続き などがあります。生活を再建する苦労がわかります。 (105字)	・災害復興住宅融資のお知らせ 震災からの早期復興を支援する目的の融資手続きの案内で す。 (28字)	葛尾村 三 春出張所
	138		・東日本大震災 応急仮設住宅入 居の手引書		・東日本大震災応急仮設住宅入居の手引書 仮設住宅の取り扱いの注意及び修理に対する対応が書かれ ています。(35字)	楢葉町
	139		・『生活再建の手 引書』福島県災 害対策本部		・国や県の取組 暮らしの支援について、医療と福祉、住まいなど様々な支援 について記されています。 (39字)	福島県
	140		・『生活再建ハ ンドブック』政府広 報			—

4-3-④避難生活日記

③	141	Photo	・避難生活中の 日記	③避難生活の日記 収集場所: 〇〇〇 震災発生の日から書かれた、ある住民の日記です。1冊 目の表紙には、「H23.3.11 午後14時46分」と発生時刻が 記入されています。この中にはさまざまな思いが肉筆で書 かれていますが、書いた時の気持ちによって筆跡が異 なっており、筆者の思いが伝わります。 (125字)	←	〇〇〇
---	-----	-------	---------------	--	---	-----


4-4健康に関する取り組み








4-4-①健康に関する取り組み

①	142	Photo	・「県民健康調査 基本調査問診票」 について	①健康に関する取り組み 収集場所: 川俣町、〇〇〇 これらの資料は、空間線量が最も高かった時期の外部被 ばく量を推計するために行われた県民健康調査の基本調 査票と、各人の外部被ばく量を測定するために使用され た個人線量計(ガラスバッジ)です。 (93字)	・「県民健康管理調査基本調査問診票」について 3月11日からの行動について、8つの問診を中心に調査してい ます。(32字)	〇〇〇
	143		・ガラスバッジ型 個人積算線量計		・ガラスバッジ型個人積算線量計 この線量計は子どもの外部被ばく線を把握するために使用 されたものです。(35字)	川俣町

4-5研修・ワークショップ

・研修・ワークショップに関係した実物資料


	144		・空間線量計	・空間線量計 線量計は測定方法の違いによりいくつかの種類に分かれま す。GM管式サーベイメータ、シンチレーション式サーベイメ ータ、電離箱式サーベイメータが主なものです。 (76字)	←	福島県 (旧原子力セン ター)
--	-----	---	--------	---	---	-----------------------

グループ	No.	展示資料	資料ネーム (名称)	資料解説①(共通解説)	ネーム+小解説②	収集場所
	145		・モニタリング機器	・モニタリング機器 展示の資料はモニタリングポスト(空間線量測定)の検出器部分です。この検出器に監視盤が接続され数値を電話回線で県原子力センターに送信していました(現在は県環境放射線センターに送信されています。)。原発事故後、この簡易版が各地に置かれるようになりました。 (125字)	←	福島県 (旧原子力センター)
	146		・除去土壌等の保管に関する住民説明用模型キット	・除去土壌等の保管に関する住民説明用模型 県による住民への除去土壌等の取扱い方針の説明会で使われたものです。ミニチュアのセットは緑色のゴムシート、黒いフレキシブルコンテナバッグ、肌色の遮蔽土壌から構成され、実際にどのように仮置き場に除去土壌等を置くのか、模型を使って説明しました。 (119字)	←	福島県
	147		・米の全量全袋検査機模型	・米の全量全袋検査機模型 米の全量全袋検査の工程を、動く模型でわかりやすく再現します。福島県は、全国でも有効の米の産地です。当初は困難と言われた米の全量全袋検査を実現するために、このような検査機が開発されました。 (93字)	←	福島県
	148		・椅子型ホールボディカウンター	・椅子型ホールボディカウンター 体内被ばく量を測定するための線量計です。お年寄りや子どもが座ったまま測定できるように椅子型をしています。 (52字)	←	埼玉県
	149		・鉛の内張がしてあるバケツ (高線量物用)	・鉛の内張がしてあるバケツ バケツの内部が鉛で覆われています。鉛は放射線を遮蔽する効果があるため、高い線量の放射線を出す物を保管するものです。 (57字)	←	福島県
	150		・除染作業に使用した道具	・除染作業に使用した道具 除染作業に使用する高圧洗浄機です。この機械で地面や壁面などの塵や埃に付着した放射性物質を洗い流します。洗い流した水は放射性物質を含むため廃棄せずに回収します。 (79字)	←	福島県
	151		・「除染作業中」看板	・「除染作業中」看板 この看板は除染作業中の現場を通過する車に、作業中であることを知らせる目的で設置しています。こうした看板やのぼり旗が日常の光景となりました。 (73字)	←	購入

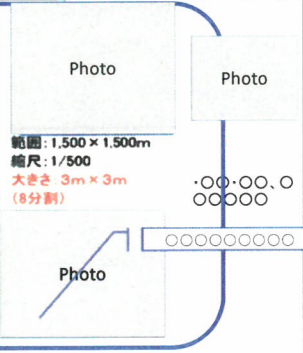
5 復興への挑戦

5-4 みらいの街

5-4-①みらいのまち

①	152		・子どもが作る未来のまち模型 (○○○)	①みらいのまち 収集場所:○○○ ○○○○に避難した○○○の子どもたちが、○○○○の子どもたちと一緒にどんなまちに住みたいかをテーマに、○○○○○が実施したワークショップの中で模型を作りました。展示は○○○の模型ですが○○○○のものも作られました。 (107字)	←	○○○
---	-----	---	-------------------------	--	---	-----

5-4-②震災前のまち

②	153		・○○○、○○○、○○○ ○○○○○	②震災前の町 収集場所:○○○ 故郷を離れた○○○民が白い町の再現模型の周りに集まり、記憶を頼りに町に色を付けました。模型に立てられた旗には「火花を見た」「お祭り」などの思い出が書かれています。白い模型は○○○○○が製作しました。 (98字)	←	○○○
---	-----	---	-----------------------	--	---	-----